

つくば市記者会 御中

発信日：令和元年（2019年）10月21日（月）

発信元：つくば市教育局文化財課

■取材依頼 ■周知依頼 □募集告知 □その他

【特別企画】約30年ぶりの修理工事完了

「筑波山神社神橋」現地説明会の開催



筑波山神社例大祭「御座替祭」にて

つくば市教育委員会と筑波山神社は、茨城県指定文化財「筑波山神社神橋（しんきょう）」が約30年ぶりの修理工事を10月に終えた特別企画として、市の文化財課職員や観光ボランティアによる現地説明会を11月1日（金）に開催します。

毎年4月と11月の1日に開催する筑波山神社の「御座替祭（おざがわりさい）」では、普段は渡れない神橋の通行を一般開放しており、説明会では、今回の修理で用いられた伝統工法など、当文化財の価値を来訪者にご紹介します。

イベントの概要

市教育局文化財課職員と「つくば市観光ボランティア298」が、現地で見学者に随時解説します。

■11月1日（金）14:00～16:00頃

■筑波山神社（つくば市筑波1番地）

境内入口・神橋周辺

※事前申込み不要、無料、小雨決行。

※大鳥居から筑波山神社入口付近の道路は、御座替祭のため15～16時は通行止め。

※16時前後に神輿が神橋を渡御するまでは、神橋への立ち入りは不可。



ポイント

- 神橋の修理後初の一般開放の機会となります。
- 高度な伝統技術が修理で用いられていることを、現地説明で紹介。
- 神橋は通常は閉鎖しており、4月1日と11月1日の御座替祭の日のみ、一般の方も渡ることができますが、修理後初となる今回は、一般開放の時間が神輿が渡った後の16:00頃から日没頃までの短時間となります。
- 筑波山神社神橋や修理工事、御座替祭については別添資料のとおり。詳細は市教育局文化財課へ問い合わせください。

茨城県指定文化財「筑波山神社神橋」の修理工事について

筑波山神社・つくば市教育局文化財課

1 筑波山神社神橋の概要

- 筑波山神社神橋は、寛永10年（1633年）の建築とされる江戸時代初期の建造物の一つで、桁行7.3m、梁間3.0m、切妻造きりつまづくりでこけら葺屋根ぶきを備えた反橋そりばしである。
- 筑波山は古くから信仰されてきたが、現在の筑波山神社は江戸時代初期、3代将軍徳川家光が寛永10年（1633年）まで大規模に整備した、神仏混合の神社や寺院を基礎としている。
- 明治の神仏分離により多くの建物が失われたが、江戸初期に遡る建造物が6棟現存しており、県や市の指定文化財となっている。
- 筑波山神社の江戸時代初期の建物群は、彫刻と彩色で華麗に装飾されていることが特徴で、ほぼ同時期に幕府が整備した日光の建物群とも共通性が高い。
- 神橋は、毎年4月1日と11月1日の「御座替祭おざわりさい」で、神輿が渡御する場となっている。

2 修理工事の経緯

平成27年(2015年)8月にこけら葺き屋根の一部が破損した。屋根はすぐに応急措置したが、前回修理が昭和63年(1988年)であり、屋根以外でも木材の腐朽や塗装の劣化等が進んでいたため、筑波山神社が修理工事を計画した。修理工事は、県・市補助事業として、平成30年(2018年)5月に着手し、令和元年(2019年)10月に完成した。

3 修理工事の概要

- 主な修理内容は以下の3つであった。
 - ・ 腐朽した土台や柱等の木材の部分交換
 - ・ こけら葺屋根の全面葺き直し
 - ・ 劣化した塗装の全面除去、漆うるし等による全面塗装
- 昭和63年の前回修理では、合成塗料の使用等、現在の文化財修理にそぐわない工法もあったが、今回は文化財の価値を損なわない伝統工法で行った。
- 施工は、飛鳥時代創業で日本最古の会社ともいわれる株式会社金剛組こんごうぐみを元請けとして、日光の社寺建築を多く手がけている株式会社小西美術工芸社こにしびじゅつこうげいしやが塗装や金物を手がける等、伝統技術を保持する専門業者により行われている。

- 木工事では、宮大工による細かな木材の加工技術が活かされている。
- こけら葺きは、^{さわら}榎という木で厚さ3mmの薄い板を作り、これを重ね合わせて屋根を葺いていく工法で、社寺建築特有の美しい曲線が表現されている。
- 塗装は^{うるしぬ}漆塗りで、約30の工程を経て仕上げられている。彫刻は^{ごふん}胡粉により鮮やかな彩色が再現された。
- これらの伝統工法の継承者は現在では極めて少なく、文化財修理は技術継承の場としても貴重である。

4 御座替祭について

- 毎年4月1日と11月1日に執行される筑波山神社の重要な神事で、^{ごこくほうじょう}五穀豊穰と世の平安が祈願されている。
- 筑波山の神を神輿に乗せて、山頂の本殿と中腹の拝殿の間で入れ替える。
- 一般の方が神橋を通行できるのは、毎年2回の御座替祭の日のみ。
- 通常の日程では、9時頃に神橋で渡初め式、その後10時頃に拝殿で^{れいたいさい}例大祭を行う。14時頃からの^{じんこうさい}神幸祭で、山麓付近を出発した神輿が神社へ向けて練り歩いた後、16時頃に神輿が神橋を渡り、拝殿に入る。一般の方は渡初め式後に神橋を通行できるようになる。
- 修理後初となる今回は日程に変更がある。例大祭後の11時頃に関係者一同で渡初め式を行うことや、神輿の通行後に一般の方に開放されることなどで、特に一般開放が16時頃から日没頃までの短時間となるため、見学者は注意が必要。

5 筑波山神社神橋の現地解説について

- 目的 筑波山神社神橋と修理工事の内容を、多くの方に知ってもらい、郷土の歴史や文化財への関心を深めてもらうため。
- 日時 11月1日（金）14:00～16:00頃
- 場所 筑波山神社境内・神橋周辺
- 内容 つくば市教育局文化財課職員とつくば市観光ボランティア298で、時間内に来た見学者に随時解説する。
- その他
 - ・ 事前申込み不要、無料、小雨決行。
 - ・ 16:00頃に神輿が渡御するまでは、神橋への立ち入りはできない。

茨城県指定文化財「筑波山神社神橋」修理工事



修理前(2015年11月・北西から) 屋根の一部は応急措置。



修理前(東から) 合成塗料による塗装が剥がれている。



木工事作業風景 宮大工により施工。



土台の継手の状況 複雑な加工をして組み合わせることで、接続部分の強度を高めている。



こけら葺屋根の作業風景 薄い木の板を重ね合わせていく。



漆塗装の作業風景 30を超える工程を経て、漆を重ねていく。



修理工事完成状況(2019年10月・南西から)



修理工事完成状況(2019年10月・北西から)